

# ○ 小野原 茂

(15分)

【一括方式】

## 1 地域公共交通政策について

- バス運行体制の一体化について
  - ・ 一体化から一年経過し、市民の声や見えてきた課題について
- 交通不便地区対策について
  - ・ 交通不便地区における取組の現状と課題について

# ○ 久 保 葉 人 (20分)

【一括方式】

## 1 公園遊具の維持管理について

令和元年12月、平成30年度の法定点検において「危険」と判定された公園遊具185基を危険な状態のまま放置していたことが発覚した。また令和2年4月には、都市公園の遊具で子どもが怪我をする事故が立て続けに2件発生し、市内の都市公園の全ての遊具を使用禁止にせざるを得ない事態となった。これら不祥事や事故が起こった原因と現在までの対応、再発防止策などの本市の公園遊具の維持管理に関する今後の方針について問う。

## 2 今後のクルーズ客船の受入れについて

本市は新型コロナウイルス感染症対策として、本年1月25日を最後に本日まで、原則、クルーズ客船の入港を受け入れていない。一方、長崎港では修繕のため入港していたクルーズ客船の乗員多数に感染が確認され、一時は県民への感染拡大が懸念された。今回、本市がクルーズ客船の受入れに対して下した判断・考え方、長崎港が受け入れざるを得なかった理由、今後もクルーズ客船を受け入れるに当たっての入国・検疫を所管する国への要望事項などについて問う。

## 3 家庭廃棄物の処理について

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、本年2月末に全国の小中学校に休校要請が出されて以降、国民は不要不急の外出自粛を要請され、自宅にとどまる時間が増え、伴い、全国的に家庭廃棄物が増加したと報道されている。本年3～5月間の本市におけるゴミの排出状況についてゴミの種類ごとに増減並びに傾向分析を、また増加した家庭廃棄物を処理するに当たっての本市の対応について問う。

# ○ 角 田 隆 一 郎 (15分)

【一括方式】

- 1 復活！させぼ七夕まつりで市内活性化を目指すことについて  
長崎のランタン、佐世保の七夕という位置づけを確立し、市内全域で活性化を図る。  
市内全域で飾りつけをし、中元大売出しをサポートする。  
ミス七夕などのイベントをサポートする。  
以上の告知についてもサポートする。
  
- 2 佐世保を、広告を使い発信することについて  
日本経済新聞の全国版に全15段の佐世保の認知向上広告を出し、選ばれる街を目指す。  
内容は、企業経営者向けに企業誘致の促進と観光誘致促進。  
デザインは、オープンコンペにより審査することで事前告知ができる。  
予算を設定し、日経の新聞広告の広告効果価値を高める提案を募集する。

# ○ 田 山 藤 丸

(20分)

【一括方式】

## 1 ポスト・コロナ時代の展開について

新型コロナウイルスが経済・社会に与える影響が注目されています。観光面では、外国人観光客等のインバウンドは早期の回復が難しいとされ、近隣地域の観光客を動員するような「域内観光」の活性化が求められます。また、働き方や住まい方も「逆参勤交代」が指摘され、リモートワーク、スマートライフが可能な環境整備による「関係人口」の創出、移住対策が重要だと考えますが、本市の考えを伺います。さらに、俵ヶ浦半島開発等の既存事業を見直す可能性についてもお尋ねします。

## 2 病院船、災害救助船の誘致について

政府は、海上で患者の搬送や治療ができる「病院船」「災害救助船」の導入を検討するため、令和2年度補正予算に調査費を計上しました。感染症対策や国内外での大規模災害時に活用が期待される「病院船」の誘致は、造船所を有する本市にとって有益であり、製造・維持はもちろん、技術力の向上、乗組員の供給・人材育成、ロボット化や先端医療等、ソフト面の開発にもつながる可能性があります。また、海上自衛隊による運用が想定されることから、陸・海自衛隊、自衛隊病院等が立地している本市はまさに適地であると考えられ、アジア・太平洋地域に近く、海外の被災地派遣を通して国際貢献分野での佐世保港の多様化も図れるのではないのでしょうか。そこで、本市への「病院船」「災害救助船」の誘致、母港化について、本市の考えを伺います。

### 3 コロナ禍における避難所、防災計画の在り方について

近年、地球温暖化の影響により集中豪雨、台風襲来が相次ぎ、河川の氾濫や土砂崩れ等、災害リスクが高まっています。今年も梅雨時期が迫りつつあり、また新型コロナウイルスの流行から、不安を感じている市民の方々がいます。一方で、内閣府は感染を恐れて避難をためらわないよう「危険な場所にいる人は避難が原則」と呼び掛けており、本市も令和2年6月1日、「避難所における新型コロナウイルス感染症対策」を打ち出しました。そこで、3密防止対策を行った上での避難所の充足状況、避難者の受付や記録、換気等、避難所業務の増加による人員不足、マスクや消毒液、体温計などの資材不足等への対応をはじめ、さらに地域防災計画の見直しや地域防災マネージャー制度、防災士の活用について、本市の考えを伺います。

# ○ 永 田 秀 人 (20分)

【一括方式】

## 1 「佐世保市新型インフルエンザ等行動計画」について

新型コロナウイルス感染症への対応については、未知の感染症として新型インフルエンザへの対応指針が準用されたと認識している。本市では平成27年3月に作成された「佐世保市新型インフルエンザ等行動計画」がそれに当たるが、この間の対応では計画と実行の間に若干の齟齬が見受けられる。この点について市は事態収束後に検討する考えのようだが、検討に向けた問題意識等についてお聞きする。

## 2 感染症対策をはじめとする政策医療の充実について

市内で常設されている感染症病床の数は、平成元年時点では54床あったものが、現在は6床と大幅に減っている。ここまで感染症病床を減らしてきた背景には、病院経営において経営効率化が大前提となっていることがある。国の医療政策の見直しが必要と考えるが、現時点で市のレベルでできることについてお聞きする。

## 3 税の滞納対策について

令和元年度の包括外部監査において「納税課と保険料課の徴収（収納）部門を統一すべきである」との提言がなされている。この提言については今後検討がなされることと思うが、本市では過去に徴収部門が一体だった時期もあったことから、今後の検討の前提として過去の担当部署分離の経緯や目的、評価についてお聞きする。

また、住民税や国保税の滞納を減らすための施策について、徴収強化以外の側面についてお聞きする。

# ○ 宮 島 武 雄

(20分)

【一括方式】

1 生活支援の取組について

- 子育て世代を支援する取組について
- 居住支援について

2 学校教育の取組について

- 今後の課題と対応策について